

令和7年度北上市市政座談会
～きたかみまちづくりトーク「WAになって話そう」～in 稲瀬

報告書

日 時 令和7年8月27日（水） 午後6時から7時まで

場 所 北上孝輝殿

参加者 地域参加者：34名

市出席者：12名 ※他事務局等8名

グループトークテーマ

- A：自治会の担い手育成はどのように進めれば良いと思いますか
- B：地域ぐるみでの空き家を活用した取り組みは何が考えられますか
- C：獣害から稲瀬の農業を守るためにこれから皆で取り組みたいことは何ですか
- D：稲瀬の歴史遺産や景観資産を活用してやってみたいことは何ですか
- E：子どもから高齢者までの全世代にわたる理想の暮らしをどのように考えますか

A-1グループ

- ・自治会の担い手について、地域活動をやってみないかという声掛けのタイミングが大切だと思う、周りの助けや支えがあることで役職や活動を行うことができた、自治会の負担軽減として、防犯連絡員の役割は見直しても良いのではと感じている、次の担い手や若い人を地域に取り込むのが課題である、等の意見があった。
- ・仕事を退職してから地元に戻ってきて、最初は地域の方の顔が分からず苦労したという話が多くあり、交流を持つことでお互いを理解し、つながりが生まれて役割を引き受けやすい雰囲気をつくれるという意見が共有された。
- ・運動会などのイベントやお茶飲みなどの交流が無くなってきており、こういった交流の場や、自分の家以外の居場所が地域にあることが、担い手を育成することにつながるのではないかという感想もあった。

A-2グループ

- ・自治会の担い手が不足している問題が挙げられ、報酬が得られないと担う人は少なくなる、自分たちが楽しくやらなければ誰も入ってこない、活動日が休日になると負担が大きい、役割を減らせば楽になるのではないかと、デジタル化して簡略化していくことの必要性など、様々な意見が出された。
- ・震災時は、普段地域活動に参加しない人たちも手伝いに来て、それぞれ得意なことを担当していたことがあり、役職を充てるのではなく、できることに参加してもらえば若い人たちも参加してくれるのではないかと意見があった。
- ・今まで通りには地域活動ができなくなっている中で、役員の負担軽減や子ども、若い世代の参加について今後も考えていきたいという話が出た。困ったことだけでなく、良くなったこと、見えていない部分も考えてみたいという感想があった。

Bグループ

- ・空き家の活用について、レンタルスペースや地域で集まる場としての活用したい、管理が行き届かないような空き家になる前に、空き家バンクに登録する準備をするなど、家を整理することを家族や地域で考えていきたい、最近では中古住宅の需要が高まり、リフォームによる活用が増えていると感じる、等の意見が出された。
- ・稲瀬地区内で、実際に空き家に引っ越してきた、空き家だった場所にUターンで戻ってきた、改装して古民家レストランの準備が進められているなどの事例が共有された。また、空き家に付随する農地の扱いが難しいという意見もあり、市出席者からは、別の地区では畑付きの空き家を希望する例もあるという話が出た。
- ・空飛ぶフードプロジェクトを利用した空き家の情報発信などのアイデアも出され、空き家の活用について前向きになれたという声もあった。

Cグループ

- ・獣害について、どう動いてよいのか分からず八方塞がりである、シカの被害が深刻で畑や田んぼへの被害がひどい、電気柵を設置してハクビシンは来なくなったが、鳥獣対策が必要になっている、シカの捕獲を強化する仕組みが必要だと思う、ケモノも人馴れして、近づいても逃げなくなっている、などの意見が出された。
- ・個体数を減らしていくことが被害を防ぐために重要であり、地域で協力して狩猟免許の取得、捕獲できる体制づくりや耕作放棄地を減らしていく対策など、取り組みについての意見もあった。
- ・ドローンを活用したアイデアが挙げられ、赤外線カメラを搭載して住処を特定することで、捕獲しやすくなるのではないかという意見や、民間の会社でドローンを飛ばせることがあるという情報提供もあった。

Dグループ

- ・歴史遺産や景観資産を活用することで、地域の活性化や観光収入の増加につながる、樺山遺跡や国見山廃寺、ひじり塚や如意輪寺の彼岸花などみどころがたくさんある、県内外から訪れる人は多いが、市内の方にも見に来てほしい、樺山遺跡は多様な活用ができるので、もっとPRして来訪者を増やしたい、等の意見があった。
- ・男山の眺望や樺山遺跡では、ベンチや柵、竪穴式住居など修繕が必要なものも多くあるという意見が出された。市出席者からは、男山の眺望では階段の補修予定の場所があることや、立木について一部民地になっているため、簡単に伐採できない場所があることなどの説明があった。
- ・稲瀬の歴史、景観資産を活用し、多くの魅力あるイベントが開催されているので、今後も継続していき、多くの人に知ってもらうことが大切であるという感想があった。

Eグループ

- ・理想の暮らしについて、地域のつながりの重要性が多く挙げられ、小学校跡地を子どもたちが安全に遊べる、集える場として活用したい、子どもたちと交流する機会が大切である、学校が地域からなくなったことで課題がたくさんある、高齢者から子どもたちまで集える居場所づくりが必要等、様々な意見が出された。
 - ・子どもたちの交流について、交流センターや樺山遺跡で集まって遊んでいる、という情報が共有され、交流センターなどを解放して子どもたちが集まれる居場所をつくるのが大切だという意見があった。
 - ・地域でイベントを企画し、交流を持つ機会をつくるのが大切であるという話があった。一方でイベントや地域活動の担い手が不足しており、継続や新しいことを始めるのが困難になっているという課題も共有された。
-

グループトークの様子



**稲瀬地区の皆さま
たくさんのご参加ありがとうございました**